

平成28年度 NTT数理システム学生奨励賞(Text Mining Studio)応募用

訪問看護師が認定看護師に望む支援の分析  
～専門性を持った看護師の地域活動拡大に向けて～

人間環境大学大学院看護学研究科  
看護保健管理学専攻 博士課程2年

井上 里恵

# 研究の背景

- 地域包括ケアシステムの推進により、医療・介護サービスの提供の場は病院から在宅へと移行



- 訪問看護の利用対象者は重度化・多様化・複雑化している

# 研究の背景

- 訪問看護ステーション及び訪問看護師の数は2012年より急増しているが、地域偏在があることや、今後利用者の増加を考慮すると充足しているとはいえない(全国訪問事業協会,2015)。

# 研究の背景

- 訪問看護師は独りで利用者宅を訪問してアセスメントや処置を行うことが多く、研修の充実と共に、実践場面では専門性の高い看護師の支援体制が必要である。

# 研究の背景

- 認定看護師が同行訪問した場合に診療報酬算定が認められるようになり、専門性をもった看護師による訪問看護サービスの質向上が期待されている。
- しかし、同行訪問は地域や時間的な制約を含め、地域活動への拡大には時間、業務量などの面で課題がある。

# 研究の背景

- 訪問看護師の知識・技術を補完し、利用者の多様なニーズに対応するためには、専門的な知識と技術を持った看護師の介入が有効である。



- そこで、認定看護師が活動範囲を拡大し、在宅看護の質を高めていくための基礎調査を行うこととした。

# 研究目的

- 訪問看護師が、支援を要する専門看護分野と専門性を持った看護師（認定看護師）に望むことを明らかにし、認定看護師の地域活動拡大に向けての示唆を得る。

# 対象

- 愛知県、岐阜県、三重県内の訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師から無作為に抽出した1500名。



# 研究方法

- 期間:2016年7月～2016年9月
- 調査方法:自記式質問紙調査(郵送法)
- 分析方法:テキストマイニング  
(NTT数理システムText Mining Studioを使用)

# 調査項目

## □属性

- 看護師経験年数
- 訪問看護経験年数
- 性別

## □質問内容

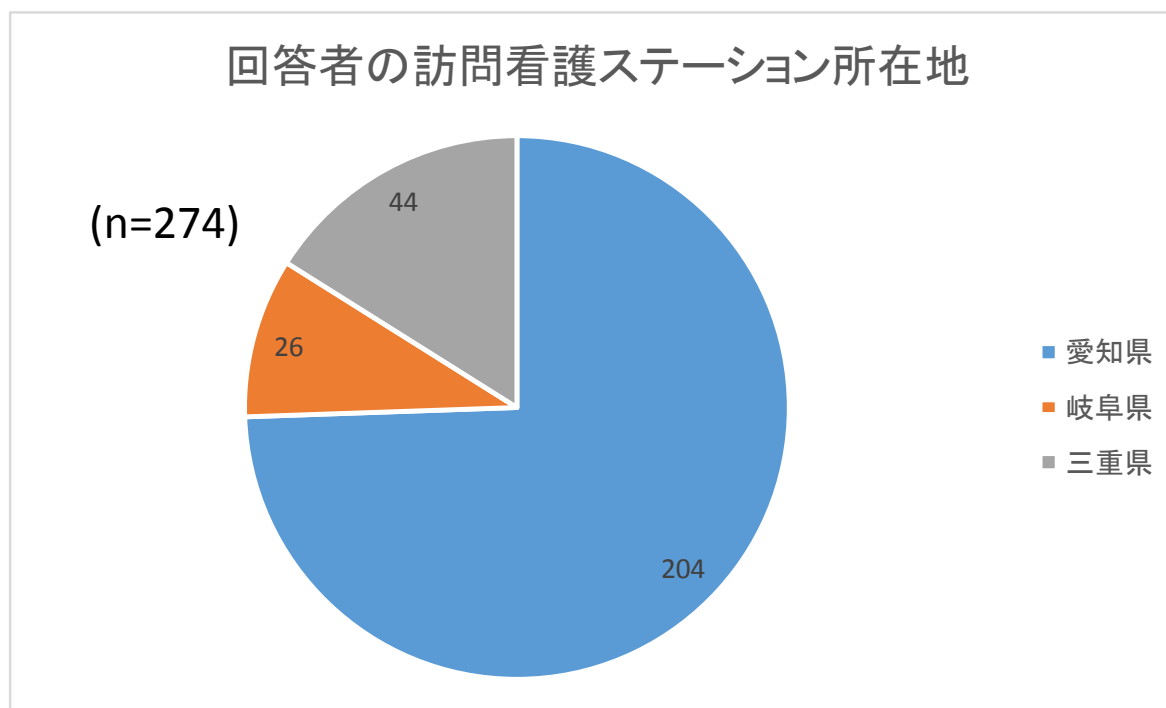
- 訪問時に支援を必要とする認定看護分野
- 支援を必要とする内容
- 病院の認定看護師に望むこと

# 倫理的配慮

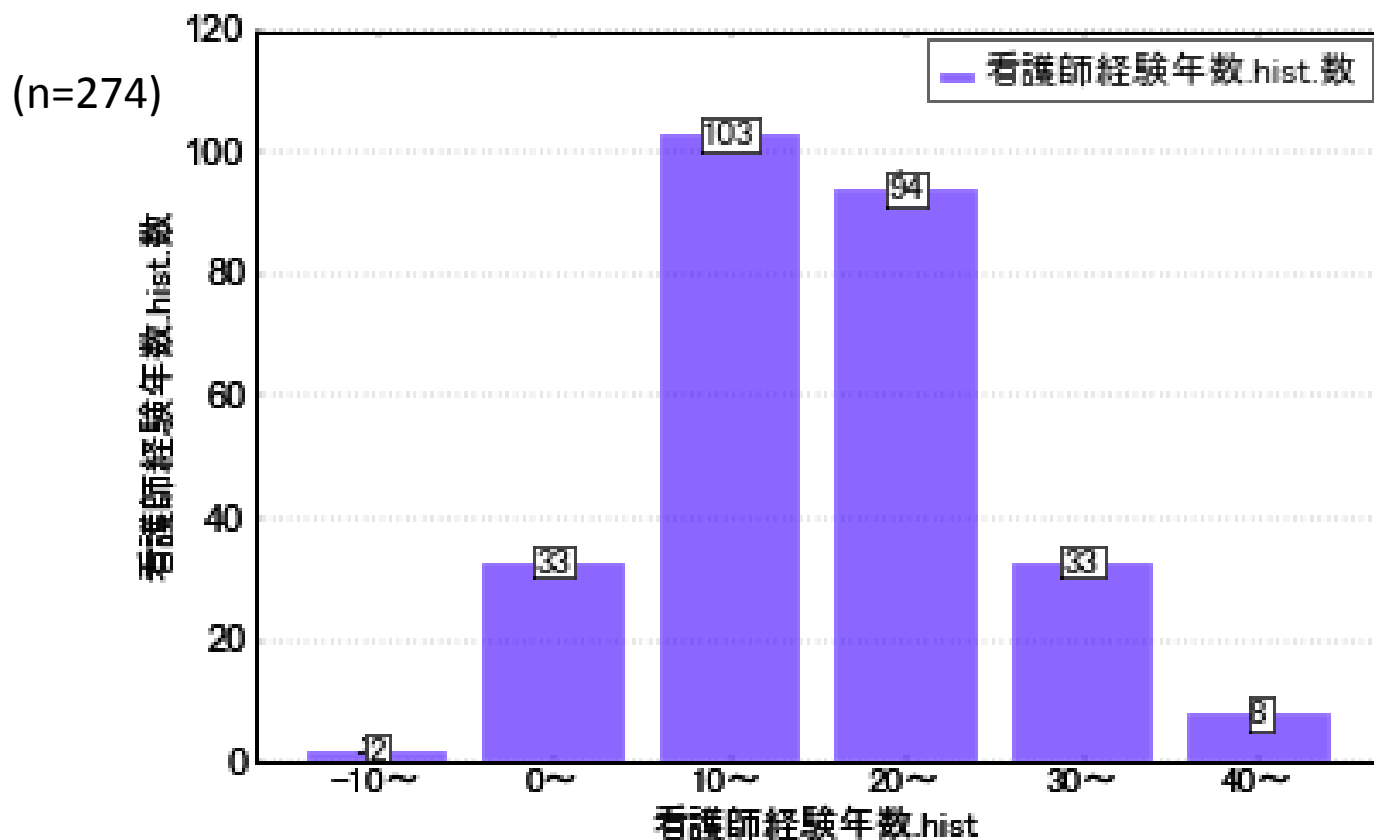
- 質問紙は、個人の自由意思により、研究の趣旨及び協力に同意した場合のみ回答し、個人で投函する方法を取った。
- 質問紙には、所属施設及び個人が特定される内容は含まないように配慮した。

# 結果

- 回答数 274部



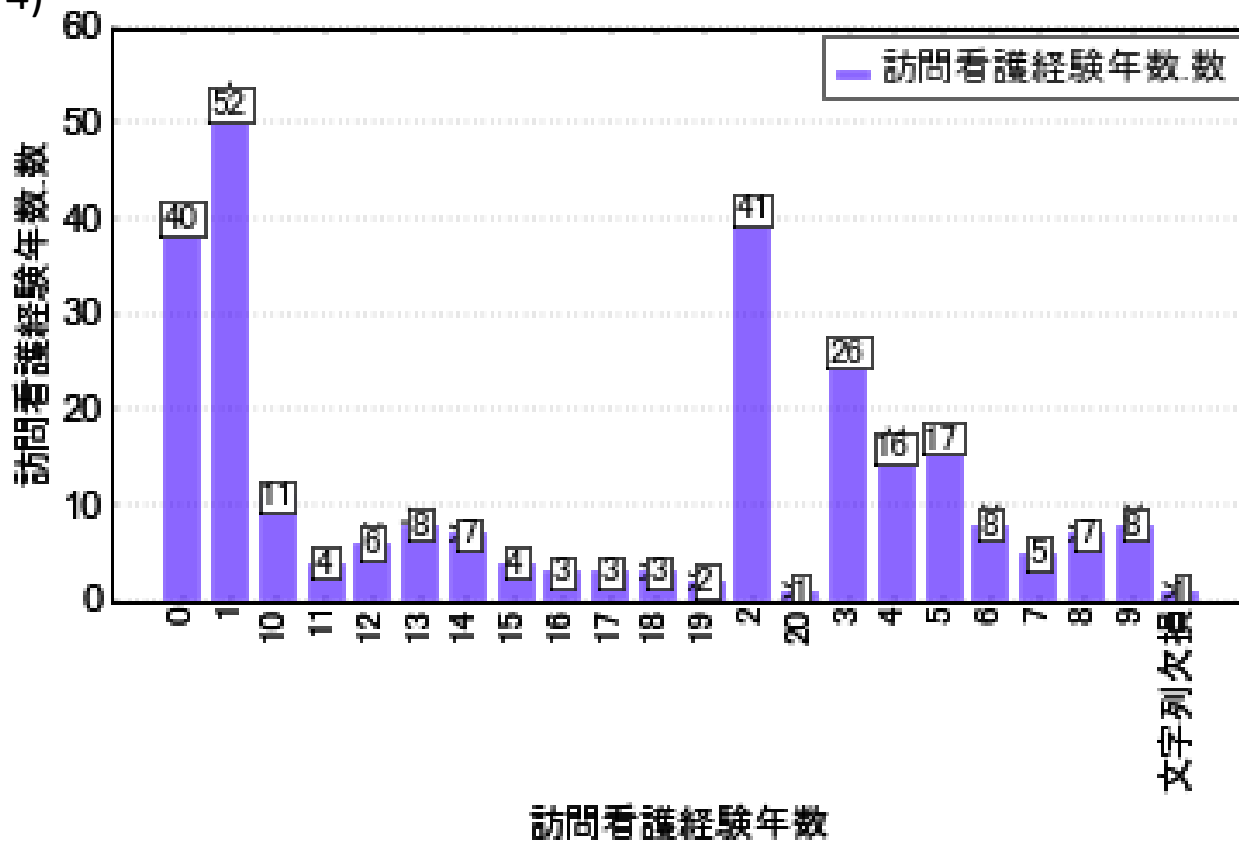
# 属性(看護師経験年数)



看護師経験は10~20年代と経験年数の長い看護師が多くを占めた。

# 属性(訪問看護師経験年数)

(n=274)

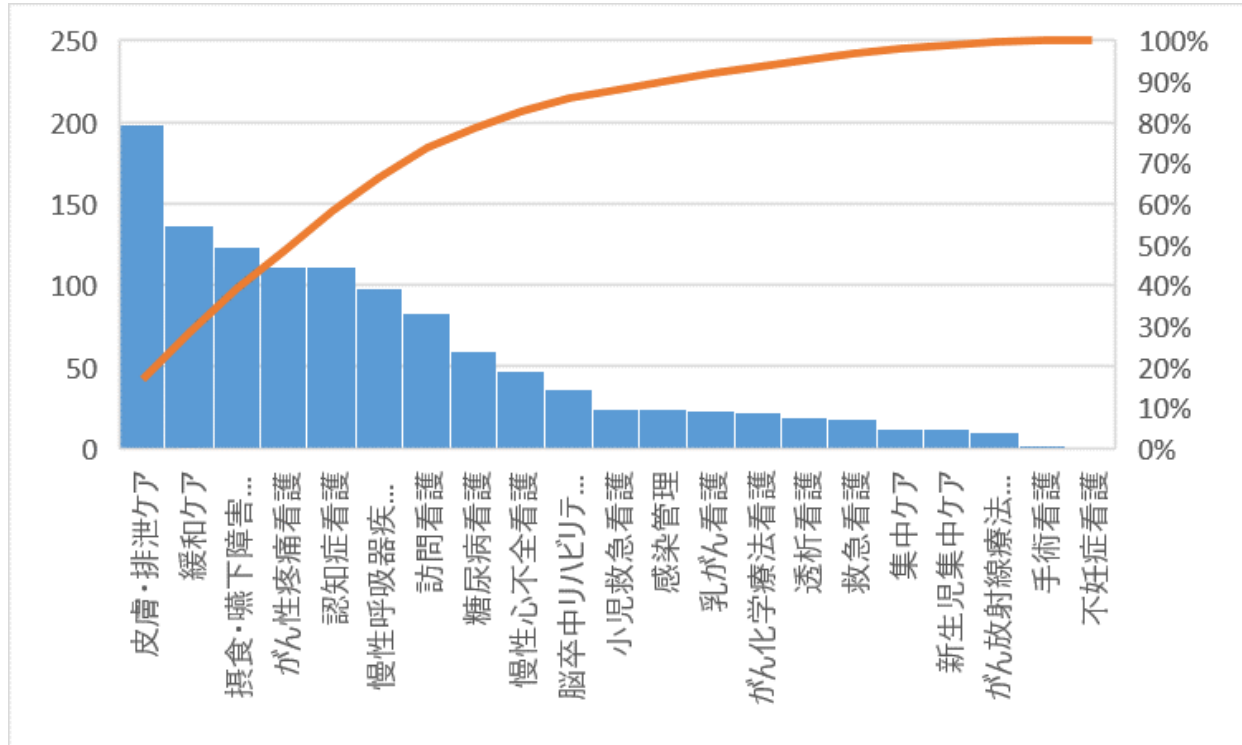


訪問看護師経験は、1～5年と経験の短い看護師が多くを占めた。

## 結果(TMSによる分析項目)

- 延べ単語数 1283語
- 単語種別数 545語

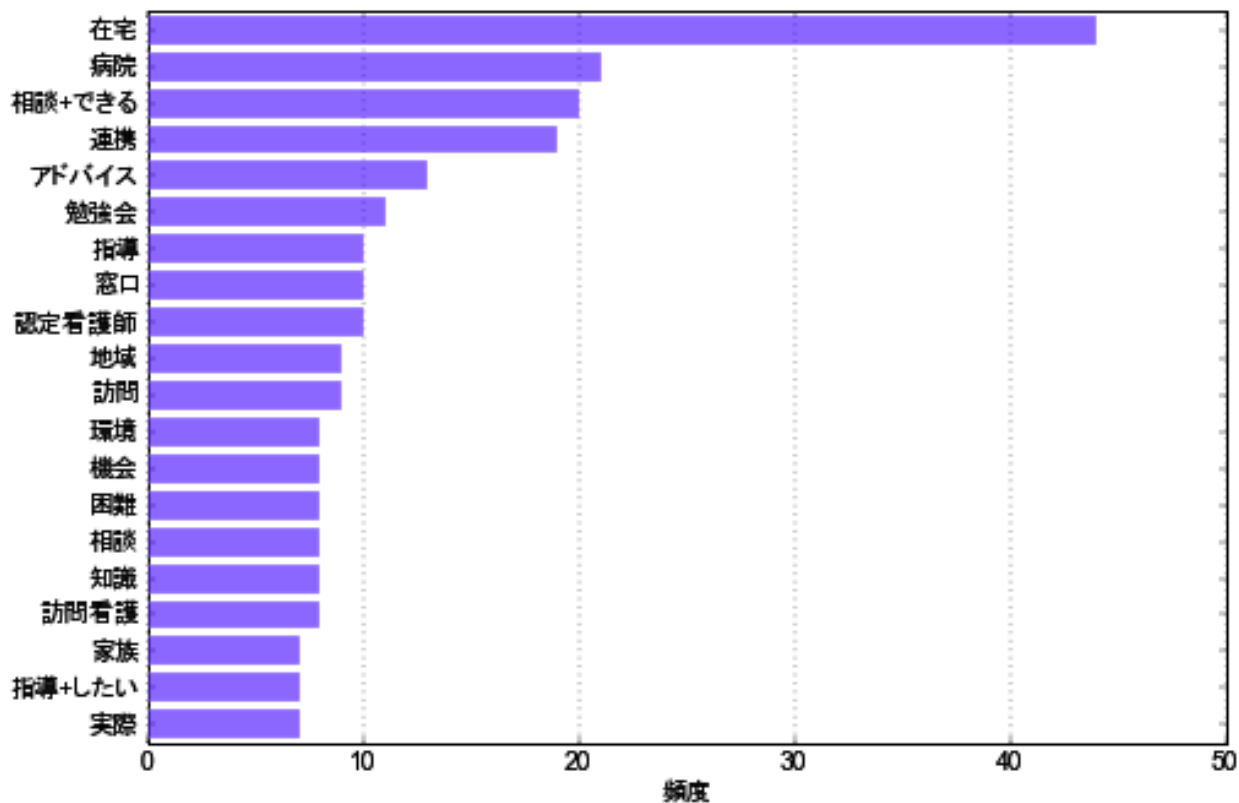
## 相談・指導を受けたい認定看護分野(複数回答)



21の認定看護分野で、相談・指導を受けたい分野は「皮膚・排泄ケア」「緩和ケア」「摂食・嚥下障害看護」の順であった。



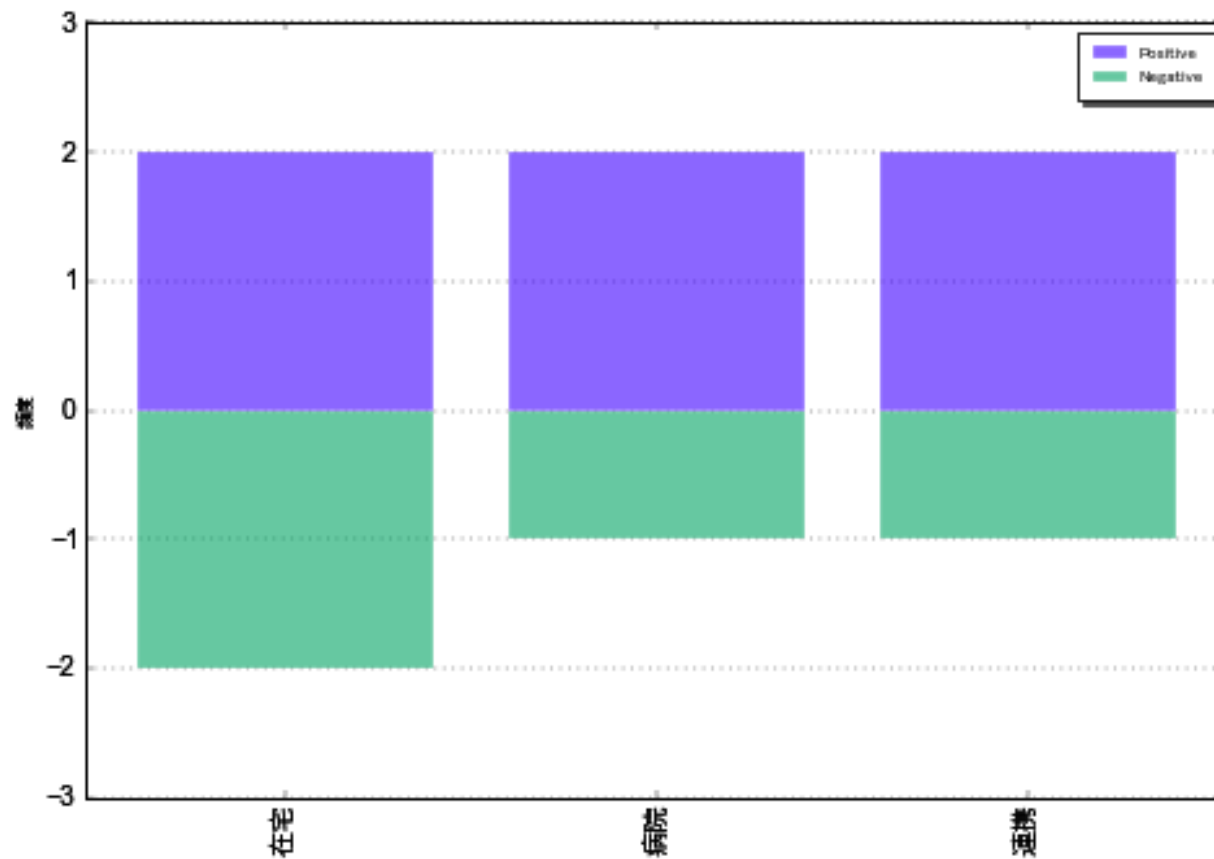
# 単語頻度分析



相談、指導、指導したい、アドバイスなど支援を求める単語が多い。

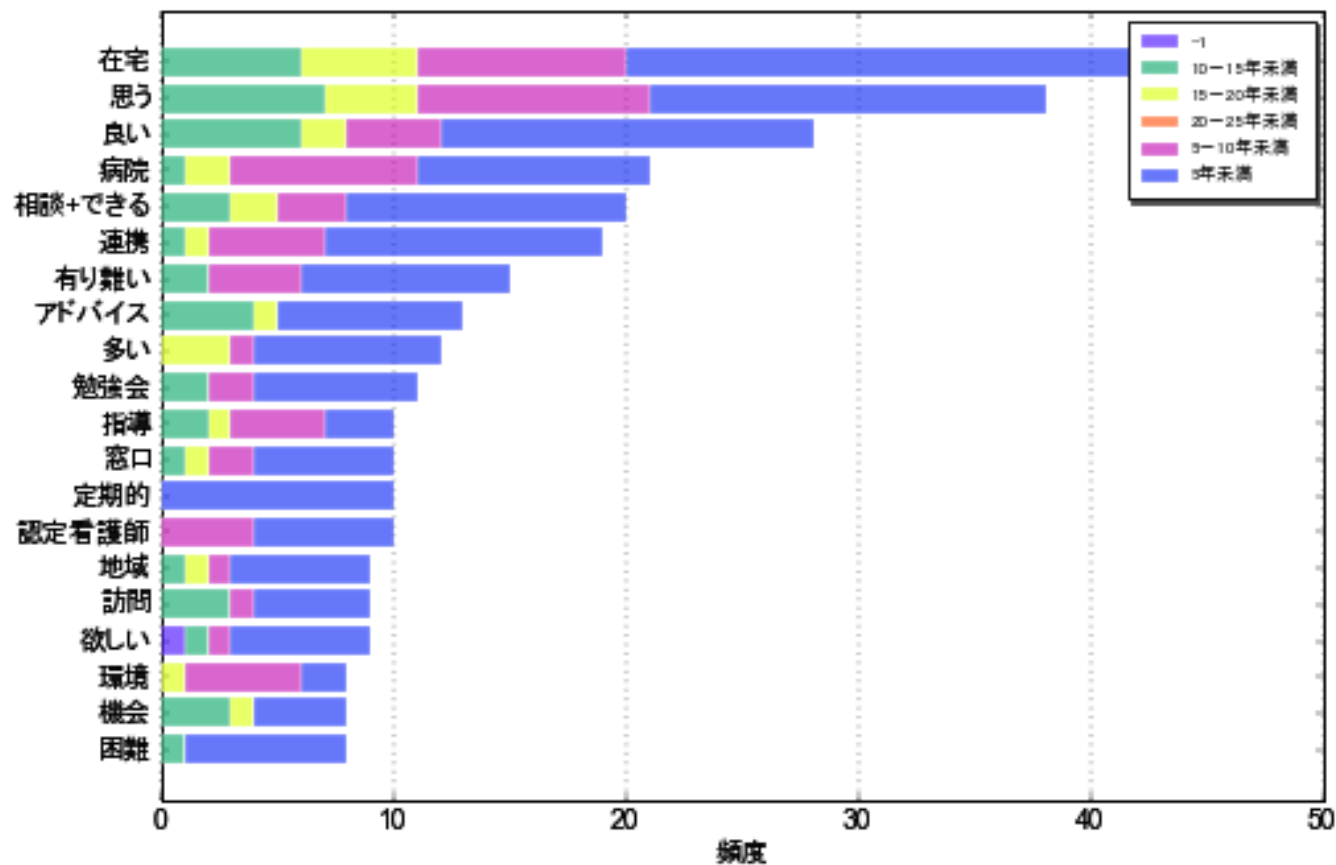


# 評判抽出(不評語ランキング)

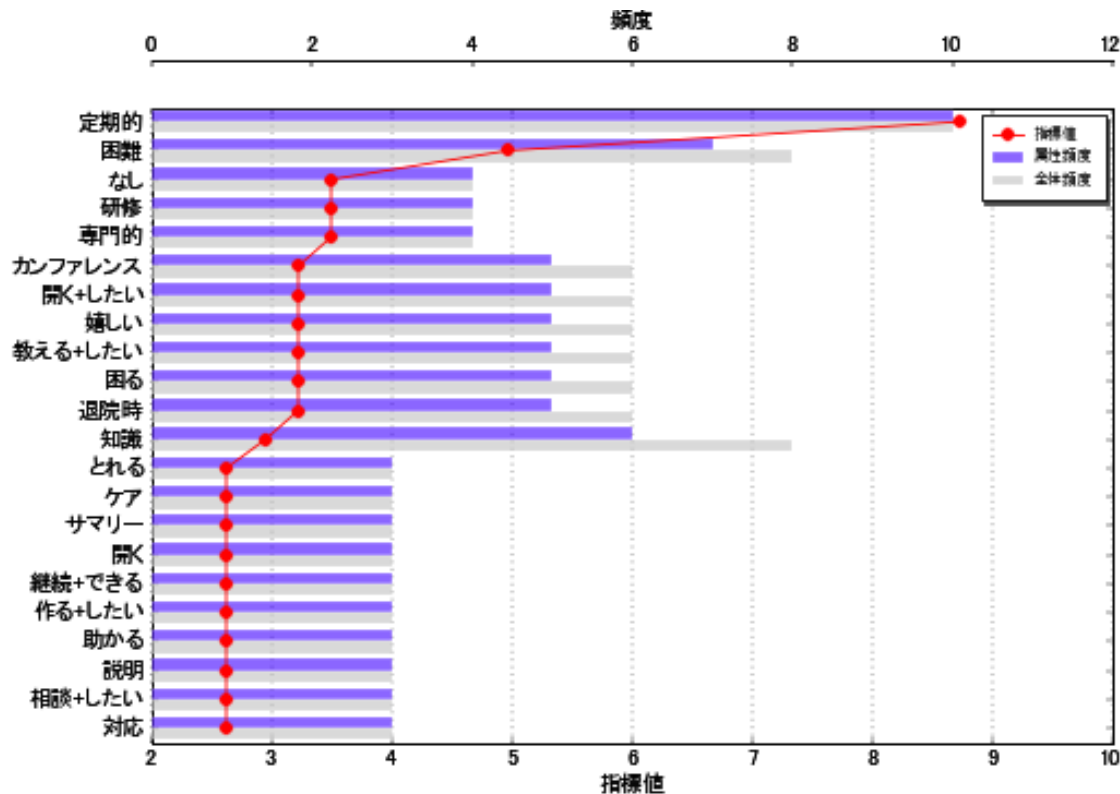




# 単語頻度解析(訪問看護経験年数別)

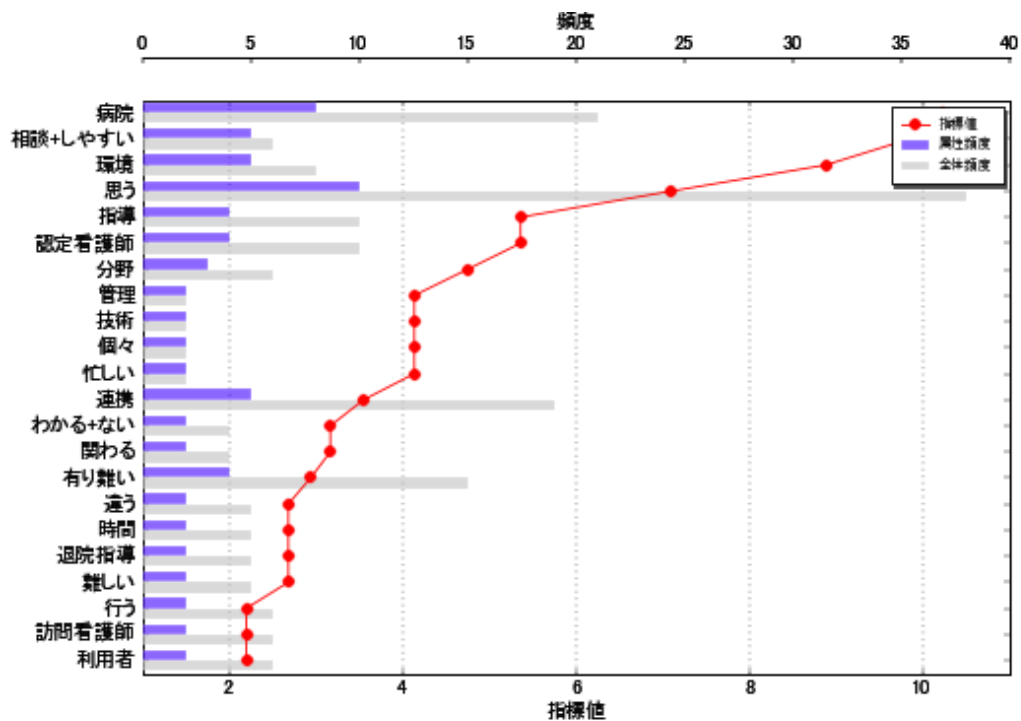


# 特徴語抽出(訪問看護師経験5年未満)



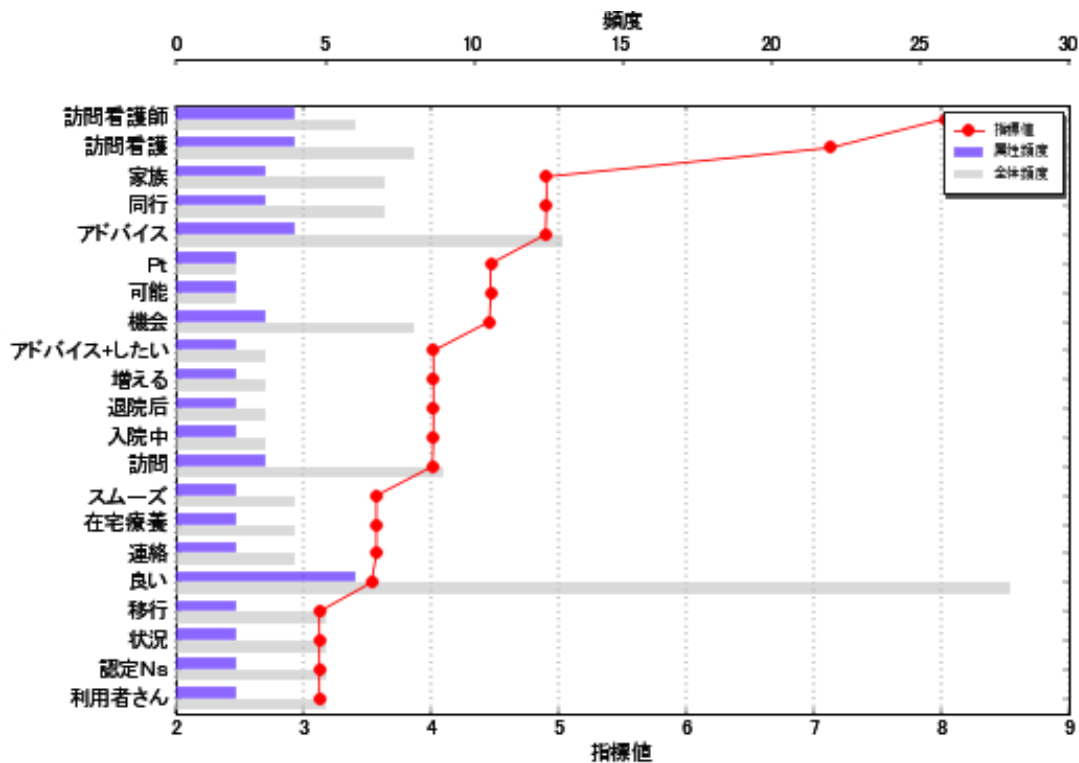
カンファレンス、開きたい、相談できる、相談したいなど、認定看護師と直接やりとりを望む。

# 特徴語抽出(訪問看護師経験5~10年未満)



連携、忙しい、難しい

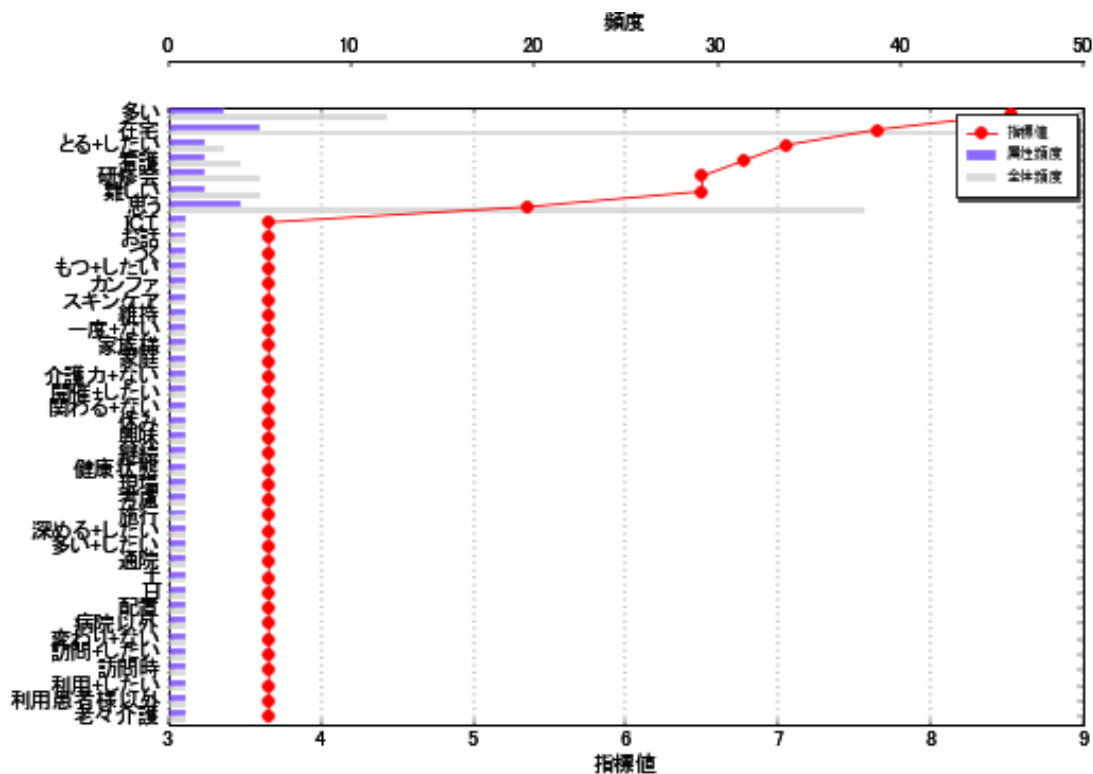
# 特徴語抽出(訪問看護師経験10~15年未満)



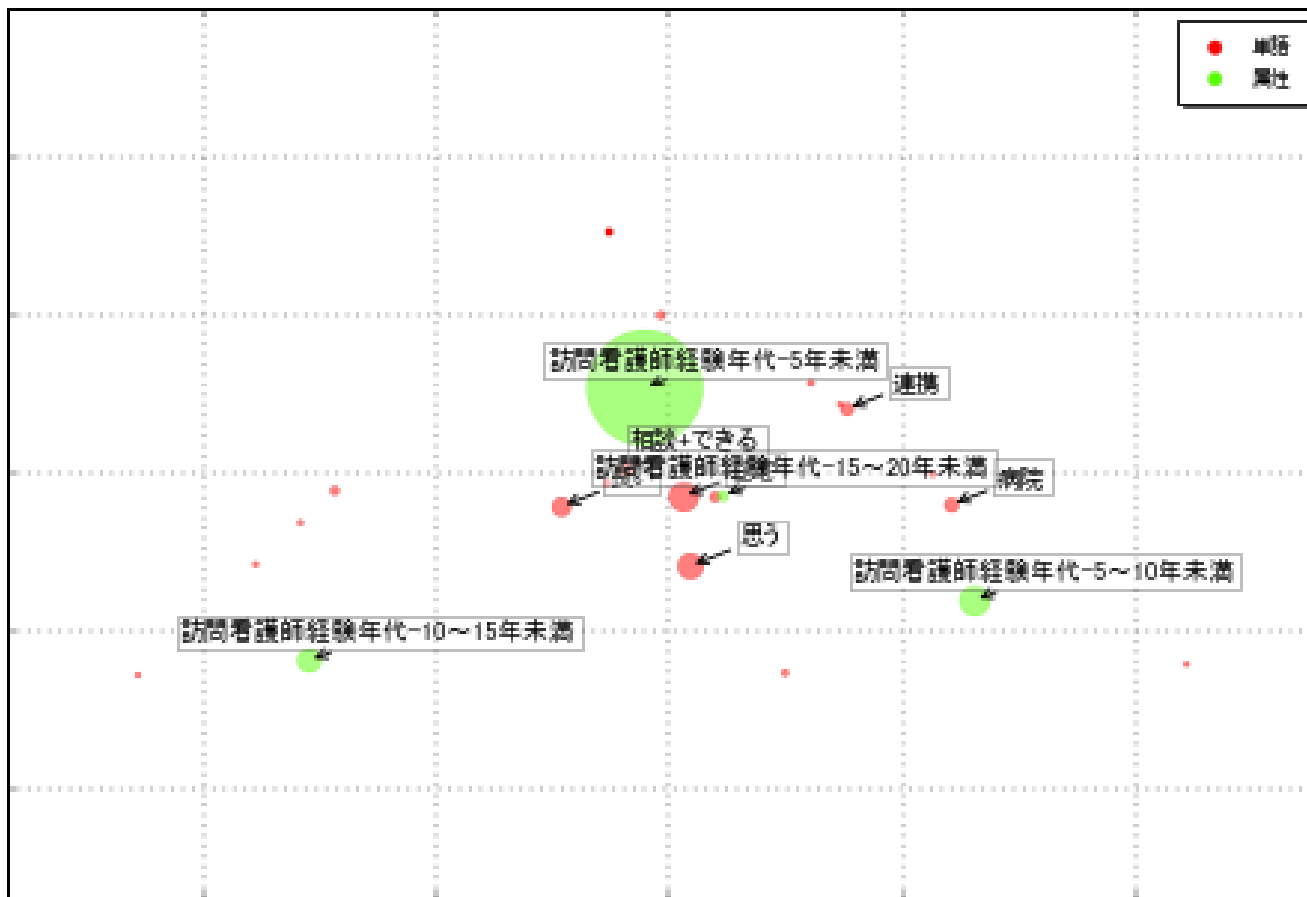
入院中、退院後など経時的な関係や患者、家族など看護の対象者が抽出



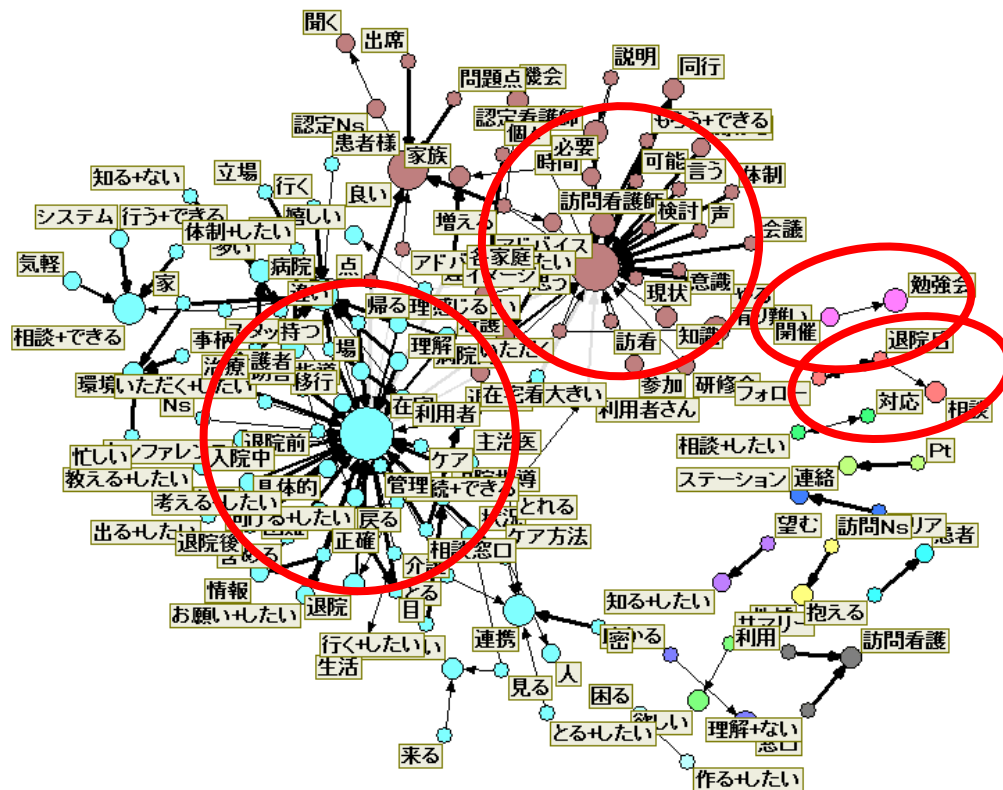
# 特徴語抽出(訪問看護師経験15~20年未満)



# 対応バブル分析(訪問看護師経験年代別)



# ことばネットワーク



ケアそのもの、訪問看護師側の現状、  
勉強会の開催、退院後のフォロー、相談

# 考察

- 訪問看護経験の短い看護師では、認定看護師に対して知識・アセスメント・技術等直接的な支援を望んでいる。
- 訪問看護経験が長くなるほど、患者・家族を含めた包括的な連携を望んでいる。

## 結論

- 訪問看護師は、様々な場面で専門性を持った看護師への支援を求めている。
- 地域包括ケアシステムを推進し、質の高い看護サービスを提供するためには、専門性を持った看護師を地域全体で活用することが必要である。

# 参考文献

- 訪問看護アクションプラン2025,看護全国訪問看護事業協会,2015.<http://www.zenhokan.or.jp/>)
- 卒訪問看護師等の訪問看護ステーション受け入れおよび定着化に関する調査研究事業報告書,日本訪問看護振興財団,2009.
- 長江弘子:地域で協働する訪問看護師の現任教育プログラムの意義と課題,訪問看護と介護,医学書院,9(1),6-12,2004.
- 古瀬みどり,青柳翔子,松浪容子:訪問看護師の在宅人工呼吸療養者支援の現状及び支援に関わる研修参加のニーズ調査,訪問看護と介護,15(4)298-303,2010.
- 栃折綾香,須釜涼子,大桑麻由美他:褥瘡保有者の退院前連携における皮膚・排泄ケア認定看護師参画の効果,褥瘡会誌,16(4)528-537,2014.